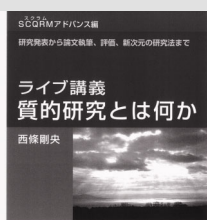


「構造化」と「明示化」の達人が説く 最良の質的研究入門

ライブ講義 質的研究とは何か

※¹SCQRM ベーシック編／※²SCQRM アドバンス編



M-GTAをはじめ、
さまざまな研究方法を創造的に
使いこなすための原理とコツを懇切に解説。
これから研究を始めようとする人への実践的アドバイス満載。

西條剛央 著

A5判・240 ページ(※1)

A5判・266 ページ(※2)

定価 2200 円＋税 5 % (※1)

定価 2400 円＋税 5 % (※2)

新曜社, 2007(※1), 2008(※2)

(表紙は※2「アドバンス編」)

評者

斎藤清二

富山大学保健管理センター

医療における 研究の意味とは？

評者(斎藤)は医療現場に身を置くものの一人として、「医療における研究とは、いったいなんであるのか?」という疑問を長い間抱き続けてきた。医療が「苦しむ患者を援助したいと願う医療者が行なう実践」であるならば、医療における研究とは、その実践現場において刻々と体験される現象を的確に説明し、ある程度の予測を可能にし、医療実践そのものに新しい意味を付与するような知の創造を目指すものでなければならない。しかし、従来の客観主義的・仮説検証的な研究法は、医療の主観的・相互交流的側面を適切に扱うことができず、上述の目的に十分応えるものではなかった。

近年、医療・医学においても急速に普及してきた「質的研究法」は、上

記の目的の追求に益する、現場に密着した研究法としておおいに期待されるものである。元来、質的研究法は看護領域での発展が著しい。このことは、最も有名な質的研究法であるグラウンデッド・セオリー・アプローチ(GTA)が、そもそも看護学領域で創設され発展してきたということからもわかる。しかし一方で「そもそも質的研究とは何か?」「質的研究で何がわかるのか?」「質的研究は科学性を担保できるのか?」といった疑問に対して明確な回答がなされることは少なかった。特に研究の初心者にとって、「質的研究の実際」を学びつつ、上記のような質的研究の原理的な問題についても同時に理解することは至難の技であったと言える。

「質的研究とは何か?」に 答える好著

西條剛央氏が今回、SCQRM(スク

ラム)ベーシック編・アドバンス編の全2巻として公刊した『ライブ講義－質的研究とは何か』は、まさに上記の不可能を一挙に可能にするような著作であり、これから質的研究を学び、実践しようとする者にとって極めて有用な入門書であると同時に、質的研究の原理的な問題に関心をもつ研究者にとっても必読の好著である。

本書は、個別の質的研究法であるKJ法やGTA法などを創造的につかいこなすためのメタ研究法である「構造構成的質的研究法(SCQRM)」の入門書でもあり、また専門的解説書でもある。「質的研究とは何か?」という問いにSCQRMはどう答えるのだろうか? その答えはベーシック編の「はじめに」において、著者によって以下のように明快に述べられている。「質的研究とは、現象をうまく言い当てる(構造化する)言語ゲームの一種であり、質的研究法とは、研究者の関心に応じて現場に入ったり、観察したり、インタビューしたり、分析したり、解釈したりするために体系化されたツールである」。

このように質的研究の本質を言い当てる(構造化する)ことにより、「方法が手段である以上、いかなる研究法もその有効性は研究者の関心や目的に応じて(相関的に)判断されることになるため、多様な技法を目的によって使い分ければよい」という立場に立つことが可能になり、質的研究はかぎらない自由さを獲得するとともに、「何でもアリにはならないための最低限の秩序」を成立させることが可能になる。このような原理



的な深みまで降りていくことによって初めて、具体的な個別の質的研究法を使いこなすことが可能になるのである。

さて本書は、上記のような原理的な基礎付けをベースに、実際に西條氏が大学院で行なった講義と演習の実際を再現しながら、M-GTA(修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ)を用いた質的研究の実際例を、読者がリアルタイムで追体験できるように、わかりやすく、かつユーモアに満ちた形式で書かれている。まさに、親しみやすさと深さを兼ね備えた記述であり、読者は実際の講義に参加しているかのような生き生きとした体験のなかで、SCQRM のエッ

センスと、初心者に必要な、質的研究の具体的なコツを文字通り体得することが可能な構成になっている。もちろんどのような好著であっても、それを読むだけで暗黙知的な実践知を完全に体得できるというものではないにせよ、この2冊を座右に置いて自らの研究の参照枠として用いることにより、質的研究の初心者がその能力を著しく高めることを可能にするだろう。

質的研究の科学性を担保する条件

質的研究が科学性を担保するための条件は何か？ という疑問は、長年質的研究者を悩ませてきた難問で

あった。著者は、この難問に対して、「それは『事象の構造化』と『構造化に至る軌跡の明示化』である」と明快に解答している。なぜそのように言えるのかという根拠については、アドバンス編に詳述されているのでここでは述べないが、評者(斎藤)は著者の西條氏はまさにこの「構造化」と「明示化」の達人であると感じている。

本書は質的研究法についての、西條氏による漸進的構造構成の最良の到達点であり、今後さらなる深化と発展が期待されるとはいえ、現時点での質的研究の最良の入門書として、多くの方々に自信をもって推薦するものである。📖